

<論文>

学習者のメタ認知能力を促すポートフォリオの再構成についての研究

－「読書と豊かな人間性」の授業を手がかりとして－

興 幸雄 松本市立筑摩野中学校

生野金三 西南学院大学

下田好行 国立教育政策研究所

Effects of the re-construction of Portfolio on Metacognitive Ability

－ With Reading and Humanity －

KOSHI Yukio : Chikumano Junior High School

SHOUNO Kinzou : Seinann Gakuin University

SHIMODA Yoshiyuki : National Institute for Educational Policy Reserch

Since the time of Integrated Study was introduced, portfolio has gotten great attention. Metacognitive ability is one of the important characteristics necessary for constructing portfolio. Metacognitive ability is the ability to recognize and control one's learning activities. The re-construction of portfolio raises the learner's ability to evaluate their own learning processes. In this report, one suggestion about the method of re-construction of portfolio is given.

【キーワード】 ポートフォリオ メタ認知能力 再構成

1. はじめに

平成10年度に改訂された学習指導要領において、総合的な学習の時間が導入されて以来、ポートフォリオ評価が注目されている。しかし、教育現場では、総合的な学習の時間に「何をするか」が重要視され、「どう評価するか」の検討がまだ十分とはいえない。総合的な学習の時間に使われる時間が限られているため、ポートフォリオ評価を試みるものの、「何をするか」の学習内容にほとんどの時間を費やしている。学習者がそれを振り返り、自己の学習を自分でコントロールする能力を育成する時間も十分とはいえない。ポートフォリオを学習物の累積物に留まらずに、学習者のメタ認知能力を育成するものにしていく必要がある。加藤は総合的な学習の時間において学習者が問題解決のプロセスの全体を見通す力がきわめて重要であるとしている。(加藤 1999)

そこで、本稿では、学習者にポートフォリオの再構成をさせることによって、学習者のメタ認知能力を促そうとする試みから、その意義と課題を明らかにすることを目的としている。ポートフォリオの作成は、信州大学教育学部の学生を対象にした学校図書館司書教

論免許科目「読書と豊かな人間性」の中で行った。学生は4年生19名，3年生40名，2年生1名，1年生3名，科目履修生1名，計64名であった。

2. ポートフォリオ評価とは

2.1 ポートフォリオ評価

学習者の学習の過程や成果にかかわる様々な情報を収集し整理し，評価する手段として，ポートフォリオ（Portfolio）が注目されている。

ポートフォリオとは，英和辞典によると「紙ばさみ，折りかばん，（携帯用の）書類入れ」とあるように，元々は，書類入れやファイルを指していた。このような特質のものを教育の現場に導入しようというのである。教育におけるポートフォリオを，高浦勝義は「一人ひとりの子どもの学習の過程及び結果に関する情報・資料が，長期に渡り，目的・計画的に蓄積された集積物である」と定義している。（高浦 1998）また，エスメ・グロワートによると，「学習活動において児童生徒が作成した作文，レポート，作品，テスト，活動の様子がわかる写真やVTRなどをファイルに入れて保存する方法」をポートフォリオ評価としている。（エスメ・グロワート 1999）つまり，様々な資料を何でも集めることではなく，子どもが学習活動でなしとげたことの中で，価値あるものと判断される事例をポートフォリオに組み込むことで，その価値を認めることがポートフォリオ評価である。

2.2 ポートフォリオ評価の価値基準

価値あるものと判断される事例を組み込むということは，価値判断の基準が問題になる。エスメ・グロワートは，以下の2つの方法を示している。

① あらかじめ設定した評価のカテゴリーとカテゴリー内の基準段階を決めておき，これに照らして各規準を満たしたと判断される場合に組み込む方法

② 評価のカテゴリーだけは決めておき，それ以上の細かな基準を設けない方法

このようにすると，個人差に応じた評価が可能になるという。ひとりのポートフォリオがそのひとりの成長を確かめるものになるだろう。そのときの基準の設定には十分な検討が必要である。

2.3 ポートフォリオ評価の特色

ポートフォリオ評価の特色には次の4つが挙げられる。

① 実際の学習活動の中で評価していく方法であること。

② 自尊感情を高めること。

③ 学習が向上していくための評価であること。

④ メタ認知能力を育成すること。

④のメタ認知能力を育成することがポートフォリオ評価においては重要な特色である。メタ認知能力とは，自分の学習活動を自己コントロールする能力である。前述のエスメ・グロワートは，「メタ認知能力を持った者は，自分の学習上の課題を自ら発見し，課題の解決のための適切な学習方法を選択し，実行して，その結果を当初の課題に照らして評価し，問題点があれば修正していくことができる」としている。（エスメ・グロワート 1999）ま

た加藤は、メタ認知とは「問題解決のプロセスの“全体”を見通す認識力」としている。(加藤 1999)すなわち、ポートフォリオが、学習者自身によって、学習の全体を見通してさらなる課題を発見していくものでなくてはならない。

2.4 ポートフォリオの再構成

ポートフォリオ評価では、前述の価値基準によって学習物等が累積される。しかし、収集されただけでは不十分である。学習者自身が次自分のポートフォリオを振り返り、課題を見つけていく必要がある。そのことがメタ認知能力を高めることにつながるからである。

そこで、筆者は学習者のポートフォリオを再構成させることによって、学習者によるフィードバック機能を高めた。その方法として、ポートフォリオを再構成しなければならない場面を設定した。このことによって、「自分の学習上の課題を自ら発見し、課題の解決のための適切な学習方法を選択し、実行して、その結果を当初の課題に照らして評価し、問題点があれば修正していくことができる」ように試みた。

3. 学校図書館司書教諭科目「読書と豊かな人間性」

3.1 「読書と豊かな人間性」について

平成 9 年に学校図書館法が改訂されたのに伴って、「学校図書館司書教諭講習規定」も改訂された。それまでは、7 科目 8 単位だったものが、5 科目 10 単位に変更されたのである。新科目は以下の通りである。

<新科目>

- ① 学校経営と学校図書館
- ② 学校図書館メディアの構成
- ③ 学習指導と学校図書館
- ④ 読書と豊かな人間性
- ⑤ 情報メディアの活用

この変更によって、以前よりも読書指導的内容が重視されることになった。「読書と豊かな人間性」の内容にはこのことが期待されている。そのねらいは、学校図書館司書教諭として、子どもたちの豊かな人間性を育むための読書活動を考えることにある。

3.2 「読書と豊かな人間性」の授業のねらいと内容

「読書と豊かな人間性」の授業のねらいと内容は以下の通りである。

(1) 授業のねらい

児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る。

(2) 授業の内容

- ① 読書の意義と目的
- ② 読書と心の教育
- ③ 発達段階に応じた読書の指導と計画
- ④ 児童・生徒向け図書の種類と活用
- ⑤ 読書の指導方法（読み聞かせ、アニメーション、ブックトーク等）
- ⑥ 家庭・地域公共図書館等との連携

これらに基づいて実際に行う内容を具体的に示すと次のようになる。

①の読書の意義と目的では、次の内容を扱う。

- ・ グループで「読書の意義と目的」についてまとめ発表する。(演習)
- ・ 作業としての意義，内容からの意義，目的(講義)
- ・ 読書による有益な副産物(講義)

②の読書と心の教育では、次の内容を扱う。

- ・ 「心の荒れ」へのアプローチ(講義)
- ・ 学校図書館の「心の教育」としての役割(講義)
- ・ 「心のオアシス」としての学校図書館(講義)
- ・ 子どもの心を育む学校図書館(講義)

③の発達段階に応じた読書の指導と計画では、次の内容を扱う。

- ・ 学習指導要領に見られる読書指導(講義)
- ・ 子どもの発達段階から見た読書能力(講義)
- ・ 読書興味の発達(講義)
- ・ 発達段階に合わせた読書指導(講義)

④の児童・生徒向け図書の種類と活用では、次の内容を扱う。

- ・ 図書の区分(講義)
- ・ マンガについて(講義)
- ・ 選書の基準(講義)

⑤の読書の指導方法では、次の内容を扱う。

- ・ ブックトーク(講義と演習)
- ・ 読み聞かせ(講義と演習)
- ・ アニメーション(講義と演習)

⑥の家庭・地域公共図書館等との連携では、次の内容を扱う。

- ・ 家庭・地域公共図書館等との連携を果たす学校図書館司書の役割(講義)

ブックトークの演習は、生野金三の実践を参考にした。

授業の実際では、集中講座ということもあり、学習内容の順序通りに講義を進めることはできない。そこで、ポートフォリオを用い、授業後に先の内容の順序通りにし、学習者の見解、感想を合わせ、再構成して提出させることにした。その過程で生じた課題についてレポートすることも付け加えた。この再構成されたポートフォリオは、単なる学習の累積であってはならない。講義の内容の要点を押さえ、テキストや資料の情報を取捨選択しなければならない。そして、この再構成の上で獲得されると思われる点は以下の点である。

- ・ 自分の学習上の課題を自ら発見すること
 - ・ 課題の解決のための適切な学習方法を選択し、実行すること
 - ・ 学習の結果を当初の課題に照らして評価し、問題点があれば修正していくこと
- 具体的には、授業内容の全体から学習した内容の要点をつかむ能力、テキストや資料等

の情報を取捨選択する能力，自ら課題をもち，それを解決する能力である．本研究では，この能力が，ポートフォリオの再構成による学習者のメタ認知能力と考えた．

3.3 「読書と豊かな人間性」の実際

読書と豊かな人間性の授業の実際は以下の通りである．

	時数	講義概要	内容
一 日 目	1	ガイダンス グループ作り 1 読書の意義と目的	・科目について 読書の意義と目的をグループで考 え模造紙にまとめる．
	2	4 読書教育の方法 ブックトーク①	・ビデオ視聴 ・講義 ・学習材・テーマの決定
	3	4 読書教育の方法 ブックトーク②	・図書を選定 ・流れの決定
二 日 目	4	1 読書の意義と目的 4 読書教育の方法	・ビデオ視聴 ・講義 ・グループ演習 グループで考えた「読書の意義と目的」 について発表してまとめる．
	5	2 読書と心の教育	・「心のオアシス」としての図書館
	6	4 読書教育の方法 ブックトーク③	・展開案の作成
	7	4 読書教育の方法 ブックトーク④	・小道具の作成 ・練習
三 日 目	8	4 読書教育の方法 アニメーション 読み聞かせ	・演習 ・ビデオ視聴 ・演習
	9	4 読書教育の方法 3 発達段階に応じた読 書教育	・ビデオ視聴 ・講義
	10	5 図書の種類と活用 6 地域との連携 4 読書教育の方法	・ビデオ視聴 ・講義 ・演習
	11	4 読書教育の方法 ブックトーク⑤	・小道具の作成 ・練習
四 日 目	12	4 読書教育の方法 ブックトーク⑥	・発表
	13	4 読書教育の方法 ブックトーク⑦	・発表
	14	○司書教諭の仕事（役割）	・ビデオ視聴 ・まとめの講義
	15	テスト	・論述

4. 読書と豊かな人間性におけるポートフォリオの実際

4.1 再構成したポートフォリオの内容

再構成したポートフォリオの基本的な内容は以下のようになる．

- ① 読書の意義と目的
- ② 読書と心の教育
- ③ 発達段階に応じた読書の指導と計画
- ④ 児童・生徒向け図書の種類と活用
- ⑤ 読書の指導方法（読み聞かせ、アニメーション、ブックトーク等）
- ⑥ 家庭・地域公共図書館等との連携

上記の講義、演習内容、資料等を学習者が順序だててまとめたものが今回の再構成したポートフォリオになる。そして、その中には学習者の自己の課題についてもレポートすることになる。次に学習者の課題について例を挙げておく。学習者は先の基本的な内容に、自分の疑問から生じた課題についてレポートしている。

4.2 学習者の課題

学習者が設定した課題のいくつかは、次のようなものである。

- ・ 国語力とは何か
- ・ IBBY（国際児童図書評議会）について
- ・ 子どもを読書好きにする方法
- ・ 読書興味の発達について
- ・ 心のオアシスとしての図書館
- ・ アニメーションについて
- ・ 学校図書館の役割
- ・ これからの学校図書館のあり方
- ・ 家庭、地域、公共図書館との連携について

学習者は先の基本的な内容に、自分の疑問から生じた課題について講義で扱った資料、新聞記事、インターネット等から情報を収集・選択してレポートしていた。

4.3 学習者のレポート

学習者によるレポートのいくつかは次のような内容であった。

A生は「心のオアシスとしての学校図書館」という課題を設定し、図書館を①読書センター、②学習情報センターとして位置づけた。特に読書センターとしての学校図書館の役割を「心のオアシスとしての学校図書館」として、心が落ち着きやすされる場としての図書館で、楽しいひと時を過ごし、心が豊かになる読書を推進しようと考えた。そして、次のように述べている。

「現代の子どもたちにとって『心の教育』というものは必要不可欠なものである。少年犯罪やいじめ等の問題が多様多様化し、凶悪化していくなかで、心を育むことはとても大切である。そこで学校図書館が『心の居場所』の一つとして確立していく必要があるだろう。司書教諭の役割として子どもたちの心を育てることは重要なのである。読書活動をはじめとして心を豊かにすること、時には子どもたちの相談相手になることなど、心をいやす場として整備していかなければならない。」

B生は「家庭、地域、公共図書館との連携について」レポートした。家庭読書のすすめ、地域読書のすすめ、公共図書館の読書のすすめ等について、そのあり方、注意すべきことをまとめている。そして、司書教諭を、学校図書館司書、学級、教科、教職員、家庭、地域、公共図書館等の中心に位置づけた。そして司書教諭は、「コーディネーター（調整役）として豊かな人間性を育む図書館を運営する役割をもつ」としている。

C生は、「これからの学校図書館のあり方」について、自身の出身高校の学校図書館の改善策を提案しながら、これからの学校図書館のあり方についてレポートした。具体的にはニュースレターの発行、生徒作品の展示、司書教諭による積極的なレファレンス等を提言している。

D生は、読書の意義について、新聞記事（2002. 信毎）からその要旨をまとめ講義内容に付記した。その内容を次に記す。

「大江健三郎さん講演要旨『本を読むことに移っていくとき、書き写すことに意味がある』、本をたくさん読んでいるうちに、『今読んでおもしろくなくても、将来役立つだろう』ということがわかってくる。ある年齢になって読んでみて「ジャストミート」する瞬間があり、そのとき本当に『この本と出会った』と感じる。人生の中で繰り返し読んでいける本が必ずある。生きる糧として心にとどめておき、いろいろな経験をして、その本を受けとめることができるときに熱中して読めばいい。すると本を読むことと人生を生きることが確実に結びついてくる。」

また、「読書と心の教育」について平成7年8月の「児童生徒の読書に関する調査研究協力者会議の報告」や1998年の中央教育審議会の答申から「心のオアシスとしての学校図書館」の重要性をまとめている。さらに、「アニメーション」について、インターネットから資料を集め、自分の理解を深めていた。

5. 再構成したポートフォリオの意義と課題—まとめにかえて—

5.1 学習者のメタ認知能力を育成するポートフォリオ

これまでにみたように、学習者のポートフォリオは以下の能力が育成されたと考えられる。

- ① 授業内容の全体から学習した内容の要点をつかむ能力
- ② テキストや資料等の情報を取捨選択する能力
- ③ 自ら課題をもち、それを解決する能力

①については、B生が「家庭、地域、公共図書館との連携について」のレポートにおいて司書教諭は、「コーディネーター（調整役）として豊かな人間性を育む図書館を運営する役割をもつ」としている。また、読書の意義について、「人間にとって必要な基礎能力の発達をうながす」としている。さらに、「読書と豊かな人間性」の授業のねらいを学校図書館司書教諭として、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくむための読書活動を考えること」としている。これらは、学習した内容の要点を的確につけているといえる。

②については、D生が新聞記事から学習内容に関連したことを取り出したり、資料の中

から必要な部分だけを取り出したり、インターネットで必要な資料を取り出したりしていることからいえる。ポートフォリオを再構成するときに取捨選択しているのである。

③については、A生やB生が、「心のオアシスとしての学校図書館」、「家庭、地域、公共図書館との連携について」等の自らの課題を持ち、学習した内容から自身としての解決の方向を見出していることからいえる。

5.2 自尊感情を高めるポートフォリオ

学習者が再構成したポートフォリオは、64名の学習者が、64通りのポートフォリオを作成した。そして、学習者の感想の中に、ポートフォリオに関して次のような記述があった。

- ・ 「自分に責任がのしかかる分、真剣になれる。」
- ・ 「やればためになる。とても楽しく勉強になった。」
- ・ 「全体を要点的にとらえることができた。」
- ・ 「受け身だけでなく自分で学習を進めることができた」

また、再構成したポートフォリオの内容は、授業の学習内容をなぞりながらも、学習者独自のものである。その構成の仕方も以下のように多様であった。

- ・ 自筆で清書したもの
- ・ ノートをコピーし、要点的にまとめたもの
- ・ デジタルカメラで自身の作品をとりこんだもの
- ・ ワードプロで図や文章を構成したもの

それぞれの学習者がそれぞれの感性から、独自のポートフォリオを作成した。そのポートフォリオは、ポートフォリオの特色の一つでもある自尊感情を高めることもできたといえるのではないだろうか。

5.3 再構成したポートフォリオの課題

ポートフォリオ評価の特色には、前出のように4つの特色が挙げられるていた。本研究の再構成によるポートフォリオは、学習者の自尊感情を高め、メタ認知能力を育成したといえる。しかし、実際の学習活動の中で評価していく方法であったか、学習が向上していくための評価であったかについては検討が不十分である。

また、本研究での学習者は、大学生を対象としていた。この研究は高校生や中学校、あるいは小学生にも応用の可能性をもつものである。対象となる学習者の比較検討によってさらなる課題が明らかになるであろう。これらのことについては今後の課題としたい。

文献

- エスメ・グロワート, 1999, 鈴木秀幸訳 教師と子供のポートフォリオ評価, 論創社, p.8
加藤幸次・安藤輝次, 1999, 総合学習のためのポートフォリオ評価, 黎明書房, p.33
高浦勝義, 1998, 総合学習の理論・実践・評価, 黎明書房, p.221

(2003年4月30日 受付)
(2003年9月3日 受理)